

は し が き

言語センター長 尾形 弘人

『言語センター広報』第26号をお届け致します。国際的な視点から地域の問題を考える「グローバル人材」の育成を目標とする第三期中期計画期間も、まもなく2年目を終えようとしています。その間、言語センターも、深い異文化理解の土台となる高い語学力を育むべく、より総合的で実践的な外国語教育に努めてきました。例えば初年次生の必修TOEIC対策授業ですが、平成28年度は平均が551点で、730点以上の獲得者は19名でした。第三期の目標が、平均点の30点向上(日本企業が大卒者に求める560点に相当)と、海外のビジネスで通用するとされる730点以上の倍増(20名)でしたので、計画期間の1年目から想定以上の好結果です。しかし、これに安堵することなく、また、「北の外国語学校」の伝統から、英語のみならず、独、仏、中、西、露、韓、日を含めて、さらに効果的な外国語教育に当たる所存です。

さて、平成29年度の活動報告ですが、新学期を迎えるにあたり、英語系の山本久雄教授が本学特任教授に就任なされました。同時にまた、中国語系の章天明准教授、スペイン語系の石井登准教授のお二人が、新たに言語センターに加わりました。章先生は主に中国語の語気副詞がご専門で、石井先生はメキシコの作家カルロス・フエンテスを研究しています。また、10月には、英語系のマーク・ホルスト教授がマラヤ大学でのサバティカルを終え、大学に戻られました。他方、誠に残念なことに、本年度末をもって、英語系の井上典子教授が関西大学に転出することになりました。これまでのご貢献に感謝するとともに、新天地でのご活躍をお祈り致します。

高大連携および中学・高校の英語教育については、8月のオープンキャンパスにて、ダニエラ・カルヤヌ教授が「Climate change: should we be afraid?」と題する模擬講義を行いました。また、7月に実施された教員免許状更新講習では、ジョン・サーマン教授、ショーン・クランキー教授が、「英語による教授法(TETE)ーコミュニケーションのための教材作成とヒント」をテーマに講習を指導しました。また、12月には、本学出身の中・高教員による第30回「教職研究会」が、言語センターのBL2教室を会場に開催されました。

その他、毎年恒例の市民向け「外国人による集中外国語講座」は、末尾一覧の諸先生にご協力頂き、英、中、露、朝の4言語について開講しました。他方、生涯学習に役立てて頂くため、夜間主コースの独、仏、中の各言語に加え、言語学、言語文化論を「通常授業公開講座」として開講しました。また、例年の「東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会」(第67回大会、東北大学、8月)には、言語センターからはロシア語系の山田久就教授が出席しました。

次にBlended Learning プロジェクトについて報告致します。BLは「online学習と教室での対面授業」を融合することを基本コンセプトに、次の①から⑤の事業を展開しています。

まず、「①デジタルコンテンツ」ですが、これまで続けてきたジョン・サーマン教授の「反転授業」に加え、本年度は、井上典子教授が、英語プレゼンテーションの授業で、従来型の対面授業クラスと、授業後に各自のプレゼン動画をonlineで検証するクラスとを比較検討しました。その圧倒的な学習効果は、グローバル戦略推進センター(CGS)主催の「アクティブラーニング・シンポジウム」(9月)にて報告され、online学習の新たな可能性が示されました。

「②双方向通信」については、ダニエラ・カルヤヌ教授によるルーマニアとの双方向通信授業に

大きな進展が見られました。まず、平成29年3月に、カルヤヌ教授、サーマン教授が、船津秀樹CGSグローバル教育部門長とともに、トランシルバニア大学ブラショフ校を訪問し、6月にはS. Zamfira教授、C. Draghici教授のお二人が本学を訪れて、今後の協定締結について話し合いました。順調にいけば、来年度には、学生をルーマニアに派遣できそうです。

「③異文化ビジネス教育」については、平成22年度から続くショーン・クランキー教授の「English Lecture Series」が通算100回を超えるに至りました。これは様々な分野のゲストスピーカーに、海外ビジネスの下地となる習慣や文化について講演頂くもので、本年度は『ジャパナメリカ』の著者ローランド・ケイツ氏をはじめ、NASA勤務経験者やラトビアで活躍する日本人アイスホッケー・プレイヤーなど、12月末までに計15回のレクチャーが実施されました。

「④外国語を通じた地域貢献」については、ジョン・サーマン教授のゼミ生が、小樽水族館のリーフレットを、前年の英、中、韓に加え、ロシア語、マレー語、ベトナム語で作成しました。また、井上典子教授は、小樽市の金融マップと海産物ガイドを英語で作成するとともに、「外国人観光客『おもてなし』インターンシップ」を指導しました。加えて、佐々木香織准教授のゼミも、増加する外国人居住者・観光客を対象とする医療英語を通じた地域貢献に着手しました。

「⑤小中高大全般における英語教育のBL展開」については、来年度、本学の近くに新しい小学校ができることから、小樽市と意見を交換する機会を得ました。英語教育に関しては、新たに英語が教科となる小学校へのアドバイスや、本学留学生の小・中学校への派遣といったことが要望されているようです。

最後になりますが、上記の①、②、③は平成26年度に、また、④、⑤は平成28年度に始まる事業であり、その中間報告として、プロジェクト・リーダーのジョン・サーマン教授が、1月開催のFDワークショップにおいて、「ブレンデッドラーニングとデジタルコンテンツを利用した教材開発」を発表しました。今後はBL (online+対面授業) という教育手法を語学以外にも広めるとともに、デジタルタスク室 (特にスタジオ機能) のさらなる有効活用が課題となります。

「外国人による集中外国語講座」担当講師一覧

- ジェイミー・ケンプ講師 (英会話)、○呉秀娟講師 (中国語)、○A・スベヴァコフスキー講師 (ロシア語)、○韓然善講師 (朝鮮語)。なお、ケンプ先生には、小樽協会病院の特別英会話講座もご担当頂きました。

海外出張・研修一覧 (平成29年1月～平成29年12月末、渡航順)

- ショーン・クランキー教授「国際学会『The Magic of Innovation: New Dimensions in Linguistics and Foreign Language Teaching』への参加とデータ収集のため」(モスクワ国際関係大学、H29.3.15～3.30)
- ジョン・サーマン教授「ブレンデッドラーニングに関する調査および折衝」(トランシルバニア大学ブラショフ校、H29.3.21～3.27)
- ダニエラ・カルヤヌ教授「ブレンデッドラーニングに関する調査および折衝」(トランシルバニア大学ブラショフ校、H29.3.23～3.25)
- ジョン・サーマン教授「TBLT (Task-based Language Teaching) 2017学会参加のため」(バルセロナ大学、H29.4.17～4.24)
- ショーン・クランキー教授「事情科目学生同行および打ち合せ」(マラヤ大学、H29.8.6～8.10)
- 章天明准教授「資料収集、研究打ち合わせ」(上海師範大学他、H29.8.9～9.4)
- 副島美由紀教授「ベルリン国際文化祭参加、科研費テーマに関する資料収集」(ベルリン祝祭劇場、ベルリン国立図書館、H29.8.24～9.21)
- 李賢峻准教授「資料調査・収集、文献購入」(ソウル大学中央図書館他、H29.9.2～9.11)
- ジョン・サーマン教授「事情科目学生同行及び研究打ち合せ」(オタゴ大学、H29.9.5～9.11)
- 章天明准教授「第4回中国語副詞研究会参加・発表他」(華僑大学、H29.12.6～12.12)